

Cグループ

木藤真紀 (中海小)

浅木栄子 (第一小)

魚住真紀 (稚松小)

高藤ともえ (矢田野小)

番田由佳 (月津小)

土田つかさ (向本折小)

染川あや子 (日末小)

田中珠美 (金野小)

川口洋美 (那谷小)

「子どものコミュニケーション能力を育む」 ～次世代育成 親や大人になるための準備教育～

—はじめに—

母親委員会で坂本和哉先生による「今、子どもに求められる力—そのために家庭では—」というテーマの講演会がありました。

近年、携帯電話・メールなどの情報機器を介した間接的な意思疎通の機会の増加により、人間関係を築く能力に課題があることが指摘されています。

1. 今とこれからの時代

国際化が進むにつれ外国企業との付き合いも多くなり、企業の多国籍化に伴い、文化や価値観の違う人達との交流も増えてきます。



あらゆる場面で柔軟な対応ができる人間性が必要とされる。



高いコミュニケーション能力が求められる。



◎次世代育成、親や大人になるための準備教育

- ①役立ち感を実感し自己肯定感を育む(やる気と元気の源・学ぶ意欲)
- ②思いやりを育む
- ③仲間作りを促進(人間関係を修復、整理)
- ④コミュニケーション能力を高める
- ⑤子どもを好きになる(虐待予防・少子化対策)



2. コミュニケーションとは 基本

相手の人格や考えを
尊重する態度



言葉による伝えあい

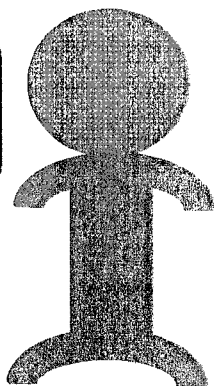
…子どもの実態は…

集中して相手の話を
聞く力が乏しくなっ
ている

直接話をしないでメー
ルで済ませてしまうこ
とが多い

生活上の問題を
言葉を介して解決
することが苦手

言葉の乱れや言語力
の不足が指摘されてい
る



家庭

- ・日頃の家庭での会話が大切
- ・親子関係が良好だと、人を信じる力が深いところで身についてくる

自分

友達

学校
(社会)

- ・友達と育ちあうことが大切
- ・心を開くことで、自分を受け入れてもらい、存在を認めてもらえる

- ・いろいろな人と関わる事が大切
- ・人との関わりの中で個性が育つ

3. 子どものコミュニケーション能力を伸ばす

コミュニケーション能力とは

「他者とコミュニケーションを上手に図ることができる能力」を意味する

- ◎感情を互いに理解しあい、意味を互いに理解しあう能力
- ◎相手の表情、眼の動き、沈黙、場の空気などに十分注意を払う事で相手の気持ちを推察する能力
- ◎相手の言いたいことを的確につかみ取る能力
- ◎意思疎通、協調性、自己表現能力

* 自分の言いたいことをしっかりと受け取られていると感じることで、人は信頼感を持つ事ができる

能力を伸ばすには…

①あいさつ

- ・あいさつはコミュニケーションの第一歩です。
- ・あいさつは会話の始まりであり、対人関係の基本となります。
子どもは、周囲の人をモデルとして社会性を学んで行くのです

②親子の会話

- ・子どものコミュニケーション能力を鍛えていくには、日頃の家庭での会話が大切です。
毎日子どもに明るく接していると、自然に子どもも明るく育ちます

③共感性

- ・相手の気持ちがわかる『共感性』は、自分の気持ちを受け止めてもらう経験をしていないと育ちません。
自分が受け止めてもらえるから、相手を受け止めようという気持ちになる

良好な人間関係を築くためには何が重要か？

2012/1. 7 日経web(抜粋)

1. 「ありがとう」「ごめんなさい」は必ず言う
人間関係はこの気持ちがないと始まらない
2. 笑顔で明るくあいさつする
あいさつ次第で場の雰囲気が変わる
3. 了解した約束は守る
実行できない約束はしない
4. 嘘をいわない ごまかさない
5. 自分がされて嫌なことはしない
常に自分に置き換えて考えることが大事
6. 必要な情報は共有する
状況が分からないと不安になったり、疑心暗鬼になったりする
7. 相手の立場になって考え対応する
8. 話を聞くときは相手の顔をみる
最も簡単で最も重要なコミュニケーション術
9. 本人がいないところで悪口やうわさ話をしない
10. 「親しき仲にも礼儀あり」を徹底する

4. 名言の紹介

コミュニケーション能力が高い人



相手の事を考えて伝えられる人

「自分は」ではなく「相手は」で考えられる「For me」ではなく「For you」である

サッカー日本代表の長谷部選手の著書「心を整える」から

2011年アジアカップのシリア戦、主審にPK判定を取られた際、明らかな誤審ではないか!?と日本代表選手は猛抗議、チームも主審も完全に冷静さを失っていました。その時、長谷部選手はほかのメンバーを主審から離して主審に歩み寄りこう伝えました。

「僕はあなたのために言っている。この試合は世界中に流れている。世界中の人が見ているのだから、しっかりとしたレフリングをして下さい」と。そして離れる際「次はよろしく頼むよ」と笑顔で声をかけた。

普段から伝える軸が「For you」ではなく「For me」であったならば、とっさの場面で、このようには伝えられないのではないのでしょうか。

「『相手のために』という姿勢で伝える習慣」を身につける事が大切です

—おわりに—

講演会を拝聴し、その中からテーマを見つけ出しグループで話し合いました。グループ全体で資料を持ち合い研究を進めることは、大変楽しく興味深い事でした。今回のグループで研究した「コミュニケーション能力」は子どものみならず、人として一番の基本であり、必要不可欠なものです。将来豊かな生活を送っていくために、今回の研究で学んだことを念頭において、親として子どもに伝えていきたいと感じました。

